

スーパー耐久 第3戦 富士 Modulo Racing Project #97 が3位表彰台

スーパー耐久第5戦決勝が、9月3日富士スピードウェイで行われました。今回のレースはシーズンを通じて最も長い10時間耐久レースとなります。Modulo Racing Project 97号車のドライバーは、伊藤真一選手、幸内秀憲選手、道上龍選手、そして中野信治選手の4名体制です。

今回のレースで Modulo CIVIC TCR の97号車には接触によるフロントのダメージ、98号車にはエンジントラブルというアクシデントが発生しましたが、それぞれ3位と4位に入賞。これで年間ポイントランキングはトップが98号車で95ポイント、続いて97号車が78ポイントで2位となり、年間チャンピオン争いはこの2台と、理論上はかすかに可能性のあるAUDI 45号車による最終戦岡山での決着となります。



3位表彰台に上がる伊藤選手、寺内選手、道上選手、中野選手



ModuloCIVIC TCR 97号車

全クラス混走のレースは朝 7 時 58 分 53 秒にスタート。A ドライバーを託されたのは伊藤選手。スタート後クラス 4 位から前を行く 19 号車 AUDI RS3 LMS をかわし 3 位に浮上します。伊藤選手は終始安定したラップタイムで約 1 時間 20 分を走行してピットイン。

次にステアリングを任されたのは幸内選手。コース復帰時点で順位を落としてしまうも、“ハコ乗り”のスペシャリストらしく 2 台の AUDI をかわしクラス 3 位で道上選手へステアリングを託しました。ここまででトータル約 3 時間が経過しています。

道上選手がコースインをして間もなくセーフティーカーが出動。原因は、グランドスタンド前ストレート後半部分のコース上に漏れ出たオイルの除去作業。イエローコーションのまま約 15 分のセーフティーカー走行によって 97 号車の背後に上位へのチャンスを狙う 19 号車が迫っています。しかし、現 WTCC ドライバーの道上選手はレース再開後、素晴らしいペースで走行。再び 19 号車を突き放していきます。トータル 4 時間 30 分を経過したところで、中野選手へとバトンタッチしました。

中野選手は 1 分 54 秒台の好タイムを次々と叩き出しながらの安定した走行で、他を寄せつけない走り。後続車両にスキを与えず約 1 時間を走行して再び伊藤選手へとステアリングをつなぎました。

しかし、コースイン後まもなくして無線から「接触した！」という伊藤選手からの無線。ST-X クラスの車両と接触しコースを飛び出してガードレールに正面衝突、フロントバンパーを破損するというアクシデント。なんとかピットにたどり着くも、ダメージはラジエーターにまで及び、この修復に 40 分を要しましたが、レースも残り 3 時間になったところで、再びコース復帰します。しかし先行するライバル勢から大きく離され、前を行く 19 号車とは 22 ラップ、そしてトップの VW GOLF TCR 10 号車には 27 ラップのリードを許してしまいました。一方、97 号車と入れ違うようにして、98 号車がピットイン。こちらはエンジントラブルで、これも修復のため一時レース中断を余儀なくされました。

その後 97 号車は順調に周回を重ね、残り 3 時間を伊藤選手、幸内選手がそれぞれ 1 時間、道上選手、中野選手がそれぞれ 30 分ずつの走行、4 人で計 10 時間を走り切りました。97 号車は 3 位入賞 19 ポイントを獲得して年間ランキング 2 位に浮上。一方、98 号車は残り数分となったところでレース復帰し、4 位チェッカーを受け、16 ポイントを獲得し、年間ランキングトップを死守しました。

次戦は最終戦。決戦の地は岡山国際サーキットで 10 月 15 日に決勝が行われます。

ドライバーコメント 97号車

<伊藤 真一選手>

長かったですね……。今年の夏は、鈴鹿8時間耐久に参戦しましたが、トラブルに見舞われてしまったので、今回はとにかく完走を目指して走りました。アクシデントに合い皆さんに迷惑をかけてしまったと思っています。次戦は自分の大好きな岡山のサーキットなので挽回できるよう頑張りたいと思います。

<幸内 秀憲選手>

とにかく無事に次のドライバーさんへつなげることを考えて走りました。今は終わってホッとしています。スプリントレース用の車にもかかわらず、プッシュしても意外と耐えられる車だったので、改めて Civic Type-R は素晴らしい車だなと思いました。

<道上 龍選手>

久々の耐久レースでした。十勝の24時間レースを経験した事がありますが、レースが長ければ長いほど下位クラスでも上位にいけるチャンスは十分にあります。速さだけではなく、車を労わりながら走れば総合優勝も夢ではないと思います。来年の富士は24時間耐久ということなので、もし走れるチャンスがあれば是非参戦してみたいと思います。

<中野 信治選手>

シーズン初めからレースを楽しむ、ドライブを楽しむということを主軸に置いてこのレースに挑んできました。勿論全力で走りますが、最終戦のレースも存分に楽しみたいと思います。個人的にはル・マン24時間に9回参戦しています。来年の富士S耐は24時間レースとのこと。戦う難しさや、楽しさもあるでしょうが、機会があれば是非参加してみたいと思っています。

ドライバーコメント 98 号車（ランキングトップ）

<黒澤 琢弥選手>

10 時間はとても長く感じました。車はスプリントレース用だったので、今回の 10 時間レースには未知数なところが多々ありました。しかし、我々のチームの強さはゼッケンが違えど、互いに情報を共有し、助け合えるチーム力にあると思っています。今回はアクシデントに合いながらも、チェッカーを受けられたのはそういう情報共有の賜物だと思います。チェッカーが受けられるか最後までヒヤヒヤしていましたが、とても楽しいレースでした。

<石川 京侍選手>

スーパー耐久と名称が変わる 2 年前から、富士の 8 時間、9 時間のレースを参戦させてもらいました。その時はトラブルに見舞われることなく完走できました。今回は一瞬あきらめさえしましたが、チームの底力と、黒澤選手の意地でも車をピットに持って帰ってくるその精神を学ばせてもらい、とてもよい経験になりました。

<加藤 寛規選手>

想像以上にいろいろなことが起こり、今シーズンのどのレースよりもタフなレースでした。チーム力とドライバー力を試されたレースでしたが、その中で完走できたことには本当にホッとする思いです。また黒澤選手の経験の深さには本当に助けられ、感謝しています。来年の富士 24 時間ですが、自身ル・マン 24 時間や、道上選手と一緒に十勝 24 時間にも参戦した経験から言うと、速さだけでなく、強さや、ドライバーとの相性なども必要になってくるレースだと思います。そういった力を兼ね備えたのがこのチームだと思いますので、もしチャンスがあれば参戦したいと思っています。

<吉田 広樹選手>

始めてこのクルマで S 耐参戦しました。先輩方から走り方や、タイヤの使い方を教えてもらい、ことドライビングに関しては思っていたより早く学べた気がします。その一方で黒澤選手のトラブル対処の引き出しの深さなどは自分にまだ無い部分だと感じました。10 時間でこれだけタフなレースだったので、24 時間になればもっとタフになるとは思いますが、その分達成感も大きいと思います。もし、チャンスがあればこのチームで参戦したいと思っています。

お客様からの商品についてのお問合せ先：「株式会社ホンダアクセス お客様相談室 0120-663521」

受付時間：9～12 時、13～17 時（土日・祝日・弊社指定定休日は除く）